



秩父市コミュニティ・スクールだより

No.6

「熟議」について、まとめてみました。

前号では、熟議の研修について報告しましたが、熟議はとても大切です。

そこで今号では、熟議についてまとめてみました。

「熟議」とは

多くの当事者が「熟慮」と「議論」を重ねながら、課題を共有し、解決策を見つけ出していくこと。

地域と学校が、地域の子どもたちを協働して育成するための第一歩です。

具体的には

- ① 多くの当事者（学校、保護者、地域住民等）が集まって
- ② 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより
- ③ 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに
- ④ 解決策が洗練され
- ⑤ 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる



熟議を行うメリットとして

- ① 様々な立場の人が当事者意識をもちながらお互いの立場を尊重し、理解を深めることができる。
- ② 学校の抱えている課題についての認識が共有され、課題解決を促進することができる。
- ③ 少人数のグループの中で、自分の思いを語り、相手の思いを理解することで、高い満足感が得られる。
- ④ 自分は何ができるかを真剣に考え、自らの役割を確認するようになる。

相互理解

課題の共有

自己肯定感

役割の明確化

この「たより」は秩父市の皆様に、「コミュニティ・スクール」を知ってもらうためのものです。

熟議の実際

実際に熟議が行われる場としてまず考えられるのは、「学校運営協議会」になります。協議会に参加する委員が、それぞれの立場から意見を出し合い、具体的な目標や課題を共有し、コミュニティ・スクール運営の指針とします。

熟議の発展（久喜市の実践）

さらに、より多くの人たちを巻き込んで、熟議を広げていくことができます。

例えば、昨年度秩父市教育委員会と影森中学校で視察を行った久喜市の例です。久喜市の^{たいとう}太東中学校では、年1回、中学校区の3校（小学校2校・中学校1校）の地域住民、保護者、学校職員が一堂に会し、設定された課題について話し合いを行います。（HOT フォーラム）

この日は、「登校時に地震が起きたとき、どのように児童・生徒の安全を確保するか」という課題で活発な話し合いを行いました。

地区ごとに6～8名のグループを作り（当日は100名以上の参加者がありました）グループごとの意見を発表するという形式をとります。このように、熟議を深めるためには、小集団での話し合いが基本になります。（ワークショップ形式）

久喜市の例では、学校では知り得ない地域の安全上の情報が共有されるなど有意義な効果がありました。また、これらの取組を通して、参加した人たちが、熟議の仕方そのものを身に付けていくという効果があります。

秩父市でも、各学校がコミュニティ・スクールを運営して行く中で、熟議の機会を増やし、地域の多くの人たちと地域の子どもたちの育成に関して、目標や課題を共有していけるよう支援していきます。

一口メモ

「熟議」という言葉を最初に使ったのは、ドイツの社会学者ユルゲン・ハーバーマスであると言われています。熟議を重んじる民主主義として「熟議民主主義」を唱えました。ここでいう熟議とは、他者の意見に耳を傾けながら自らの立場を修正しようとする態度を持って議論することを指します。

秩父市教育委員会学校教育課

電話 0494-25-5228 ホームページ <http://www.city.chichibu.lg.jp/1900.html>